



労協連だより

高成田 健

9月より労協連事務局長に着任した高成田です。今月よりこちらのコーナーを担当します。宜しくお願ひいたします。

1997年に入団してちょうど20年が経過し、これまで事業所・事業本部と現場を担ってきましたが、本部勤務は初めてであり、また法制化を間近に控えた現状において、非常に緊張し、一から勉強しなおす覚悟で臨んでいます。

着任して3週間足らずですが、「協同労働の協同組合」法制化対応および「いま、『協同』が創る2017全国集会」(10/7-8滋賀)(通称：全国協同集会)の準備に関わっています。法制化については、自民党・公明党の与党ワーキングチームとともに、法案骨子(案)作成に向けて、ワーカーズコープおよびワーカーズコレクティブを対象としたヒアリングが何度か実施されています。約10年前の法制化運動の際に大きな問題となった労働者性において、衆議院法制局より明確に労働者性が認められ進められているところが前回との大きな違いであり、長年労働者のための協同組合として活動し続け、法制化を求めてきたワーカーズコープにとって大きな進展に感じています。

協同集会に関しては1987年に静岡の伊東市ではじめて開催され、それから30年目の節目の大会となります。多くの地域団体が実行委員会に入り、23の分科会の準備が進んでいます。全国各地でプレ集

会などが開催され(9-10月だけでも大阪、長野、福井、仙台、大田、三多摩、大隅、匝瑳、名古屋、文京で開催)、協同をテーマに多様な報告や話し合いが行われています。全国各地のプレ集会に登壇した方で全国集会の分科会でも発言される方もいますので、ぜひ楽しみにしていただければと思います。

滋賀県は琵琶湖という自然と地域が一体となった地であり、本集会でも開催地滋賀から多様な協同の実践者が登壇し、人と地域と自然の協同や循環をテーマに話し合われます。また記念講演の京都大学山極壽一総長を先日訪問し、古村伸宏労協連理事長らと懇談しました。そこでは現代はインターネットや携帯によるコミュニケーションが発達したり、科学技術に先導された経済主導の社会に向かっているが、そうではなく人と人の繋がりを大事にし、共に生きる社会を目指すべきと、これまでの人類の発達を基にした明確なお話をされていました。非常にわかりやすく、若者をはじめとした多くの人にぜひ聞いていただきたいと思いました。

現地実行委員会の参加団体数、登壇者の数、集会の規模、そして内容と過去最高水準の協同集会となることが予想されます。ぜひ多くの方の参加の呼びかけを再度宜しくお願いします。